

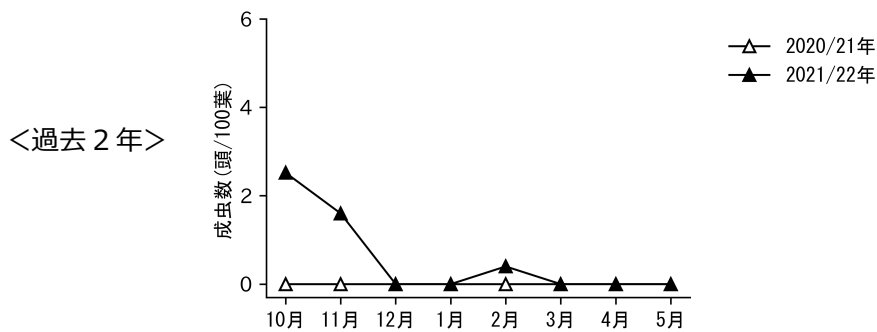
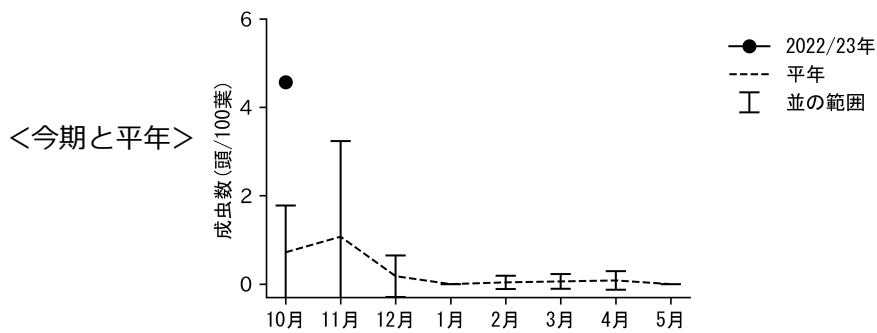


作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		 	
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	10 月からの増減傾向	↗		
		11 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率 57.1% (平年 : 17.9%)

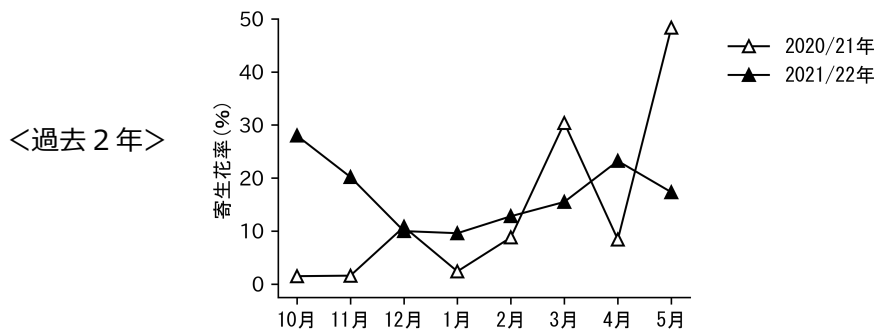
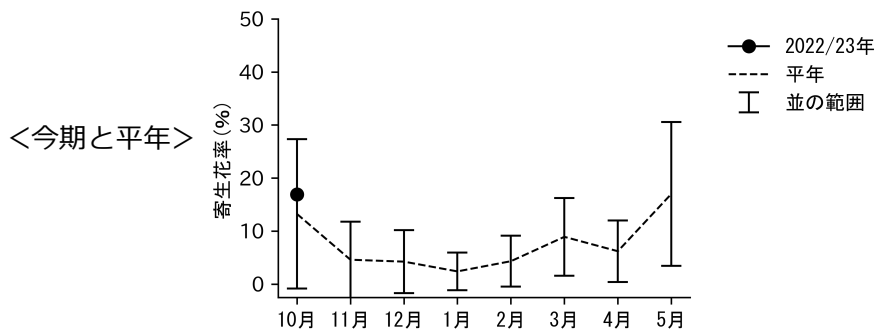
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	ヒラズハナアザミウマ			
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


寄生花率の推移



・発生施設率85.7% (平年：33.3%)

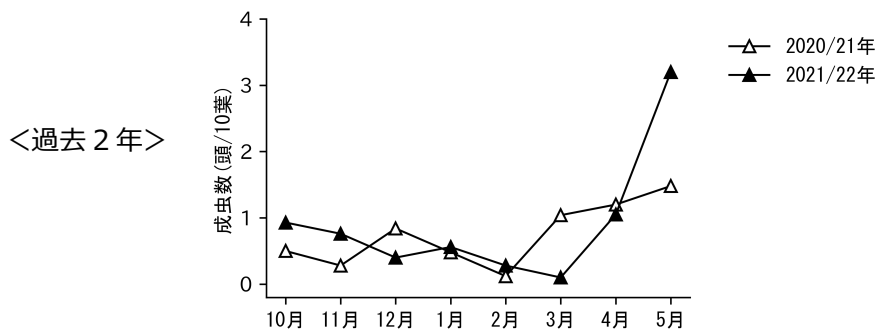
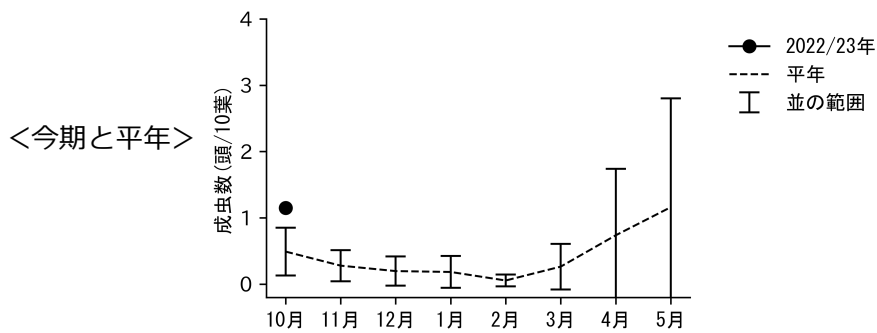
防除のポイント

- ・本種は主に花に寄生し、多発すると産卵により果実ヘタ部や果梗部が黒変する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		 <p style="text-align: right;">成虫</p>	
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	10 月からの増減傾向	↓		
	11 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率85.7% (平年 : 59.0%)

防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。



幼虫